

すべてを 愛に

# よつて

マリー・リヴィエ



Pilar Ramírez  
Jesús Mario Lorente





すべてを 愛に

# よって

マリー・リヴィエ



信仰は愛から生まれ、  
奇跡は信仰から生まれ、  
そして奇跡の中で私たちの歴史が生まれました。





# 序文

何か言っていていいですか？

私は愛についての紋切り型が我慢できない、私は甘ったるい愛が我慢できない、映画のロマンチックな愛も。

どうしてか分かりますか？

感傷は一時的で気まぐれで現実を歪めるし、空っぽの言葉は心に触れないからです。なぜなら、愛が理想化されれば、それは到達不可能で、非現実的で表面的になるからです。そして、特に愛をこのすべてと混同することは、心から生きることの素晴らしさを失うことになるからです。

愛することは、自分の歴史とその全ての出来事を引き受けることであり、自分が誰であるかを知り、自分自身を知り、自分自身に耳を傾け、自分自身を尊重することです。

小さい頃、私はベッドから落ちて、すべてが変わりました。歩く前から信頼することを学ばなければならず、孤独と遊び、痛みと共に育ちました。私の生活環境は容易ではありませんでしたが、きっとあなたも大変だったのでしょうか？生きることは決して容易ではないのですから。

あなたは歴史が勇敢な人によって書かれていると聞いたことがあるかもしれませんが。そして、私は愛することは自分自身から出ること—その賜物と恐れと—そして自らを寛大に与えることを意味するので、勇敢な行為であると言います。

愛とは、愛する人を中心に置くこと。それは出会いと対話であり、統合であり多元性です。愛は開かれること、愛において既得権はない、何の結論もなく、何も終わらず、何も確立されていないのです。

愛することは、他者と共に在ること、受肉すること、神をすべての中心に置くことです。

だからこそ、歴史は愛する人によって書かれ、みんなの手の届くところにあるということを伝えます。

私たちは皆、愛することが出来るのです。あなたも出来るのです。

空しい言葉もなく、甘ったるい感傷もなく、ロマンチズムもなく、真の愛は、内部と外観を変容させ、革命を起こし、奇跡を可能にします。

マリー・リヴィエ



火は火を点じ  
ともされた松明は他の多くの松明に火をともします。  
そしてイエス・キリストを見いだした人は  
すべての人に彼を知らせることしか  
望みません。

マリー・リヴィエ





**私を癒してください!**

**そして3年後、ピエタの前で、奇跡が起こりました。**

マリー・リヴィエは、明らかな不可能に直面して、すべての強風と荒波に対して、確固たる信仰を持って生きました。

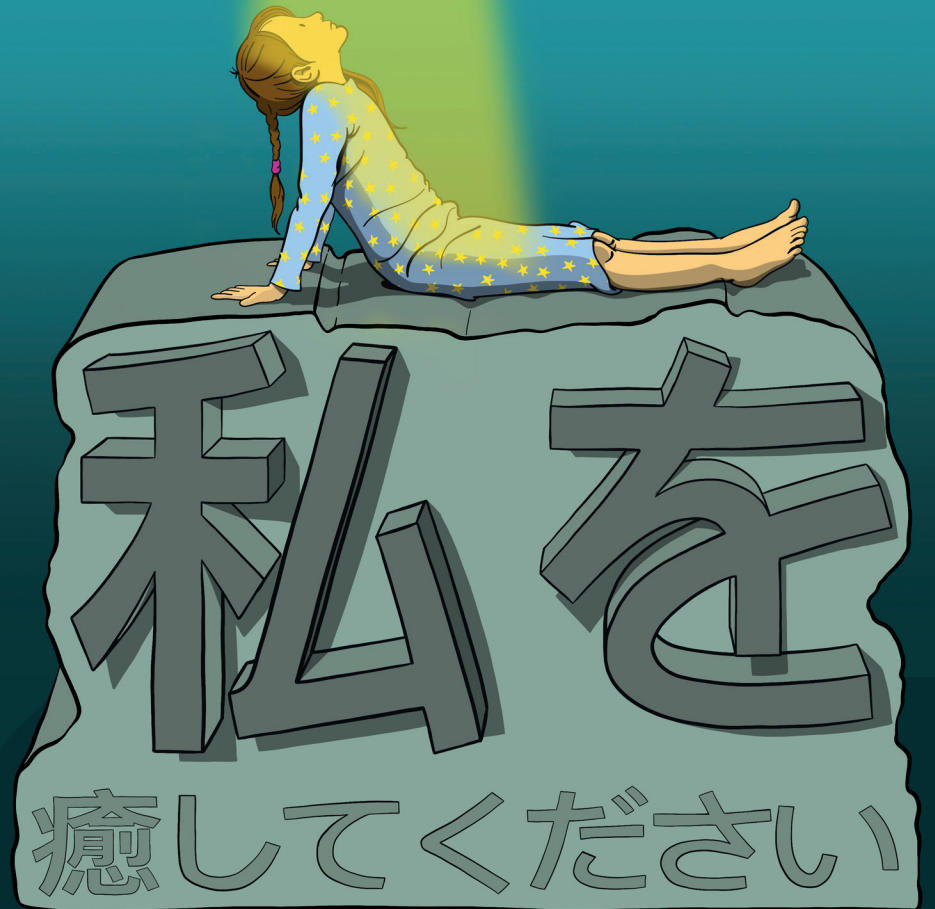
神を愛し、神のために生きるという確固たる決断から生まれた信仰です。

彼女は見るものに満足せず、見る前に信じています。信仰が唯一の保証であり、その上に彼女は希望を築きます。そして、彼女の召命が生まれるのは、この信仰からです。

愛されていると感じるから、信頼する子供の信仰。この経験が彼女を変え、一つの約束になります。「**私はあなたに子供たちを連れて来ます、彼らがあなたを愛するために**」

信仰の奇跡は、それが可能であると信じること。無償の愛、見る前に信じることです。

ヘブライ人への手紙 11, 1-3  
エレミヤ 1, 4-8





私は小さく、子供の頃からいつでも病気がちでした。しかし、イエスを信頼することは、不可能と思われるものが可能であり、小さなものが大きくなり、脆弱さが力となることを知ることです。

魔法もなく、仕掛けもありません。あなたの心を動かすのは神だからです。

自分自身を知り、誰であるかを知ること、自分の強さがどこにあるかを知ることです。そしてそれは体力とは何の関係もありません。

あなたの強さと偉大さは、あなたの心の中に、あなたの真実性にあります。あなた自身と他者のための、無限の愛の能力の中に。

ステレオタイプや偏見があなたの人生を決めさせてはいけません。時には、私たちは他の人が世界を見る方法に合いませんが、それは彼らの見方に過ぎません。それが裁きにならないように、それがあなたを引き留めないように。

マリー・リヴィエは、多くの「いいえ」を受け取りました。人々が彼女の体形、低い身長を警戒したからです。人々は彼女の内なる自己の強さを見る方法を知りませんでした。彼女がそれを実証しました。

新しい見るための方法を提供しなさい、そしたらあなたは他の人のための希望になります。

信頼、愛、そしてすべてが変わるでしょう。

ルカ 10, 21  
1 コリント 2, 1-5







マリー・リヴィエは、社会レベルで多くの困難に遭遇し、彼女は前進しました、

フランス革命によって課された憎しみ、迫害、恐怖にもかかわらず。

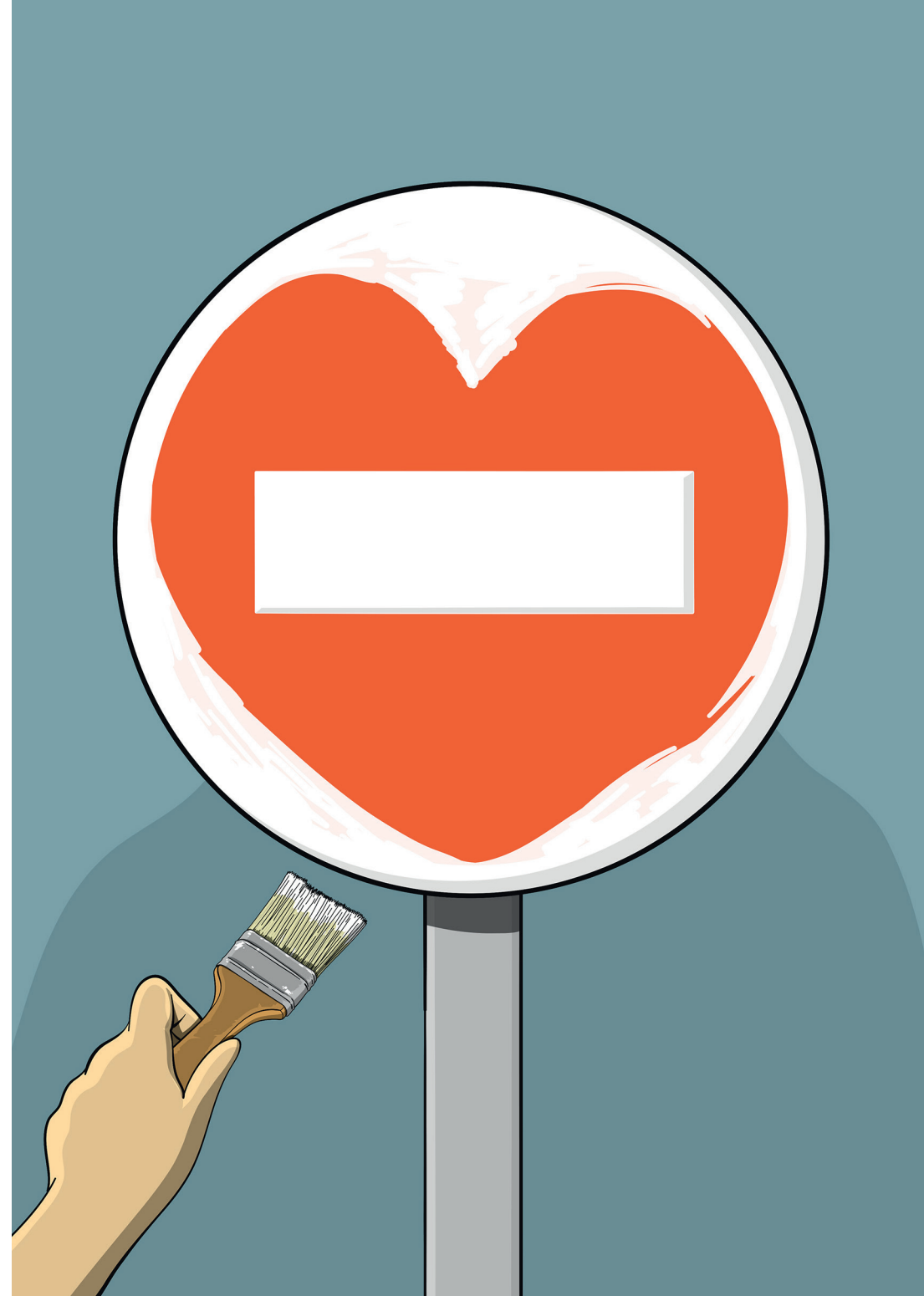
歴史のその時代において、宗教教育は禁止され、修道院は閉鎖され、修道会は自由を奪われました。

彼女は勇敢な女性で、常に自分のベストを尽くすことを決意し、どんなときでも劣等感なしで困難に直面できる女性でした。彼女はそこに愛し、変容し、新しい現実を作り出す機会を見出しました。だから何も彼女を止めることは出来なかったのです。

困難は人生の一部であるので、私たちの道には常に困難がありますが、困難とどのように向き合うか、どのように生きるか、どのように克服するかを決めるのは私たち次第です。

すべてが自分自身の中にあります。

申命記 30, 11-16  
エフェソ 6, 14-17





マリー・リヴィエは神の偉大さと、彼女が呼び出されたと感じたミッションに魅了されました。しかし、神がそれらをあなたの心の中に置いた場合、大きすぎるミッションも、または達成不可能な計画もありません。

彼女は、多くの場合、自分には出来ないという感じ、全ての人々が彼女に反対しているという感じを持ちつつ、何も無いところから、偉大なことを実現します。彼女は歩くこともできないのに、飛ぶことが出来るのです。

彼女は自分自身を小さく見て、恐怖を抱いて、自分の限界を認識していますが、彼女は信頼し、自分を運ぶのは神の手であると感じています。

これほどに小さな、これほどにわずかな手段を見るならば、「私たちをここに連れて来たのは神であることを、どうして疑うことができるでしょうか？」

私たちの弱さを認識することは、私たちが心から愛することを可能にする勇気の行為であり、マリー・リヴィエが惜しみなく彼女の人生全体を与えるのはそこから出発しています。

ローマ 8, 28-31  
イザヤ 40, 31







「全て」は、奉獻、すなわち心から生き、自らを与える人生を、定義する言葉です。

私はすべての私の能力と知識であなたを愛し、今日、今、私はあなたに今日、そして永遠にすべてを与えます。

そして、すべての色の日があるので、「すべて」は、ある日には喜び、ある日には疑い、ある日には恐怖、幻想、寛大さ、暗闇、希望など、あらゆる色に、何色にでも着色されますが、それは重要なことではない。大切なことは、すべてのあなたの存在、すべての魂、すべての心を込めて愛することです。

愛は人生を変えます。すべては二度と同じになることはありません。なぜならあなたが変わるからです。

愛とは、他者の一部になること、他者と共にいること、一つの革命です。

愛とは全てであり、すべてが神です。

1 コリント 13  
マタイ 7, 24-27





1796年11月21日、マリー・リヴィエは4人の仲間とともに、フランス革命中に修道会が受けた迫害のために秘密裏に身を捧げました。このようにして聖母奉献会は創立されたのです。

それは非常に重要で楽しい一日、多くの人々の人生を変える新しい段階の始まりでした。

修道会は、その日の祝日からその名前を取ります。マリー・リヴィエは、祝日の深い意味と彼女が姉妹のために夢見ているもの間に大きな類似性を見ました。

非常に古い伝承によれば、聖母マリアが非常に若い女の子だったとき、彼女の両親、聖ヨアヒムと聖アンナは、エルサレムの神殿に彼女を連れて行き、彼女の誕生について神に感謝するために彼女を奉献として神に捧げたことを伝えます。

マリー・リヴィエは、自己を与えることの喜びと人生への深い感謝を生きることを夢見ていました。彼女は心を込めて神に仕え、完全に愛することを夢見ていました。

ヤコブの原福音  
使徒言行録 4, 32-35

# 11月21日





私は皆があなたを愛するようにしましょう。





**「大きな心を持ちなさい、そうすれば本当の喜びを知りましょう」(マリー・リヴィエ)**

寛大さは命を広めます。なぜならそれは人々の心にまっすぐに届く所作だからです。それは私たちを結びつける、無償性を通して私たちを豊かにします。

寛大であること、それは自分の心を広く開き、物質的なことを超えて飾り物なしで自分自身を与えることです。

心から生じる所作は、他者のために創立的な経験です。何故ならそういった所作はまなざしを変容させ返させ、私たちを深く一致させるからです。

心を広げることは、私たちを近づけ、違いをなくします。これは、真の愛と真の喜び、すべてがうまくいくということとは関係のない喜びを可能にします。

すべての人が喜びの中に生きることができるよう、すべての人のための場所を作るために、あなたの心を広げなさい。

1 テサロニケ 5, 14-21  
ヨハネ 15, 9-11







祈りは、完全に無償な方法で神に会うことであり、それは神の愛を味わうことです。この経験は私たちの人生全体を変えます。

祈りは神に話すだけでなく、神を聞くことであり、親密に出会うことです。何故なら祈りの主な目的は神の意志を求めることであり、心を誠実に開くことだからです。

これらの理由から、祈りはマリー・リヴィエにとって不可欠です。祈りは彼女の人生の柱であり、そこから神との一致が生まれます。彼女は砂漠の、沈黙の呼びかけを感じました。全てを捨て、この親密さと出会い空間を探究することへの呼びかけを。

沈黙は彼女にすべてを教えました。孤独の中で、彼女は自分の召命を見つけたのです。

そして、彼女はそれが彼女が私たちに残すことができる最高のものと考えています。

**「わたしは祈りの霊を遺産としてあなた方に残します  
(マリー・リヴィエ)。**

沈黙、穏やかさを求めなさい。あなたは驚かされることでしょう

マタイ 6, 5-13  
ホセア 2, 16





愛さずに祈ることは可能でしょうか？

空だけを見て生きることは可能ですか？

神は人生に受肉します。地面に足を置いて、顔を合わせて、あなたの目を見ます。そしてそれが私たちの召命です。神が私たちを、あなたと私を愛するように愛することです。

祈りは神との対話であり、独り言ではなく、だから二人以上を必要とするのです。それは一緒にいること、充実していること、それは人生を分かち合うことであり、互いに同伴することであり、沈黙です。

自分の行いに祈りを導入し、あなたの行いを祈りの中に入れること、それが信仰を生きることなのです

マタイ 18, 19-20  
2 テモテ 4, 2





**「あなたの心の最も深いところで神と会話することを学びなさい」(マリー・リヴィエ)**

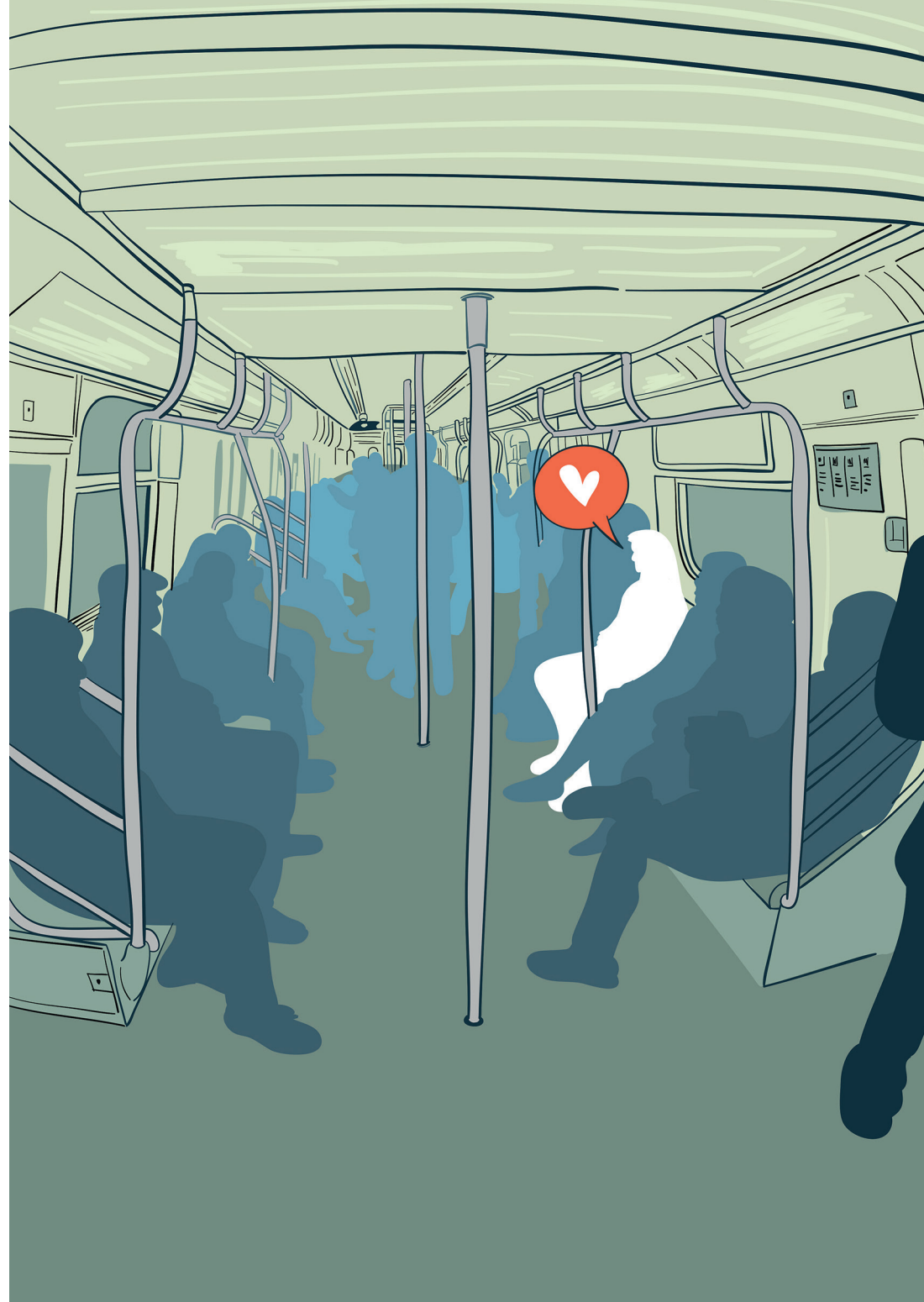
あなたが一人の時も、群衆の真ん中にいるときも、常に祈りなさい。

神との関係を特定の時、特定の空間、典礼に限定することは、神を人生から切り離すものです。それは神から離れること、神を私たちのために仕立てられた神に変えてしまうことであり、神のメッセージは意味を失います。

神はすべての人々の中に住んでいます。神のこの現存を激しく生きなさい。毎分、あらゆる状況で神の現存を認めるようにしなさい。

**わたしたちはイエス・キリストの現存です。**

ルカ 11, 1-4  
エフェソ 3, 14-21







何も驚くべきことが起こらずとも、あらゆることに、特別なことがなくても、感謝することは、心で見えることを知ることです。

それは私たちが経験するすべての瞬間を役立てることを意味します。それは私たちの目を開き、世界、外部を見て、私たちが必要としているものを意識することです。それは、私たちの小さな宇宙を超えて、現在を超えて私たちの視点を広げることです。

世界に従事し、お互いを当事者と感じるために、立ち止まり、観想し、超越することです。細部に、あらゆる所作に気を配り、そしてすべてのものに神を見ること、私たちを同伴する神の手を見ることです。

心の底から「ありがとう」を言う理由は常にあります。

コロサイ 3, 15-17  
フィリピ 4, 6-9







み摂理に信頼すること、それは自分の視線を変えることであり、それは絶え間ない探求であり、自由と同義語です。なぜならそれは常に重要なものがどこにあるか、何が自分の人生を動かすのかを知って生きることだからです。

マリー・リヴィエは、物事や出来事の意味は、それら自身が持っているものだけでなく、それらの私たちにとっての意味を発見することができることを私たちに教えてくれます。ですから彼女は私たちにこう言います。

**「常に神が望むことに開かれていなさい。」**

神は私たちが出会うすべてのことの中に私たちを待っています。挑戦は、私たちが自らを捨てて、神の心の鼓動に耳を傾けることです。

私たちはお互いのみ摂理なのです。あなたの目を開き、見て、信頼しなさい。

マタイ 6, 33-34

マタイ 6, 19-21





**あなた方は何人ですかと尋ねられたら、こう答えなさい。「私たちは一つです！」**

これらの言葉で、マリー・リヴィエは、私たちが他者と共にいること、私たちは一つの心、一つの霊を持つように呼ばれていることを思い出させます。

多様性の中の一致と違いを生きることは、私たちに近づけ、私たちに力を与えます。私たちの力は、一つの家族、一つの氏族に属するという感覚にあります。どう呼んでも構いませんが、一つの心であるという感覚のうちにあるのです。

私たちの最初の作業は、心についての作業です。それが私たちを、自分自身を愛し、そして愛することへと導きます。何故ならそうでないと、命は命ではないからです。

愛することは危険を冒すことです。何故ならそれは命を与えることですから。しかし愛さないことは、命を失うことです。

ヨハネ 17, 21  
1 コリント 12, 12-27

# 私たちは一つです!





神を愛することは、世界全体を抱擁することを意味します。

私たちは、すべての被造物の中に神を愛します。何故ならそれはすべて神の愛の表現だからです。私たちの目を閉じて、現実  
に背を向けて神を生きることは可能でしょうか？

私たちの信仰とは、私たちの目と心を開いていることなのです。それは人生への愛の告白であり、共通の未来を構築するための約束です。

私たちの共通の家への配慮と尊重は、各自の任務であり、各自の責任です。すべての所作、行動は、私たちが望む人生を定義します。私たちが愛していると言うなら、私たちは生態学的災害を無視し、それは他の誰かの仕事だと考えて、この惑星を軽蔑して生きることはできません。

愛は私たちの内外の世界を構築し、再構築します。

創世記 1  
詩編 148





謙虚さは、それが素朴を大切に、私たちが現実根付かせ、心から来て、ごまかしを知らないで、私たちの召命において、私たちが幸せにするお守りです。

謙虚さは心を開き、自分をありのままに見て、自分の弱点を知り、認め、何が重要で何が本当に本質的かを理解させる鍵です。

謙虚になることは、誠実に行動し、近しくあること、傾聴すること、人とつながることです。気持ちを通じ合わせ、誠実であることは、正直さと率直さをもって自分のしていることに関わることです。

マリー・リヴィエは私たちに言います。私たちがしていることにおいて私たちが謙虚であればあるほど、私たちは善を行うことができます。何故なら謙虚からは一致、出会い、本当の意味での命が生まれるからです。謙虚さは私たちが独りでは何も出来ないことを思い出させます。

フィリピ 2, 3-11  
ルカ 9, 48







兄弟愛を生きることは、血縁を超えた家族であること、私たちが兄弟姉妹であると感じ、深い愛をもってお互いを大切にすることです。これは皆の仕事ですが、しかしそれは同時に私たち一人一人の責任です。

それは少しずつ共同体の真の心、真の兄弟愛を形成する所作、優しさ、奉仕、無償の愛です。

自分を愛し、私たちの違いの中に自分を受け入れることは、私たちが豊かにし、私たちが成長させます。裁くこと、理解のなさは私たちが遠ざけ、私たちが傷つけ、私たちがより不幸にします。

人が自分の限界、欠点、恐れを受け入れるとき、他の人のそれらを受け入れて理解することが易くなります。これにより私たちは出会い、共に生きることが出来るのです。

兄弟愛は人の身になることを意味しますが、それが可能となるためには、あなたは自分の履物を脱がねばならないことを忘れないで下さい。

ローマ 12, 15-16  
ルカ 10, 25-37





マリー・リヴィエは、持っているものを分かち合います。それが  
多い、少ない、あるいはほとんどなくても。何故なら彼女が  
分かち合うのは、彼女の存在だからです。

彼女は何も持っていませんでした。経済的貧困は彼女の人生  
全体を特徴づけましたが、それは彼女が寛大で素晴らしい  
ことをするのを妨げませんでした。

分かち合うことは、あらゆる意味で増加させます。そしてそれ  
は物質的なレベルだけではないのです。

私たちは、全てを持っていて、全ての可能性が手の届くところ  
にある時代に生きています。しかし私たちは窮乏の中に生きて  
います、何故なら何も私たちには十分ではないからです。

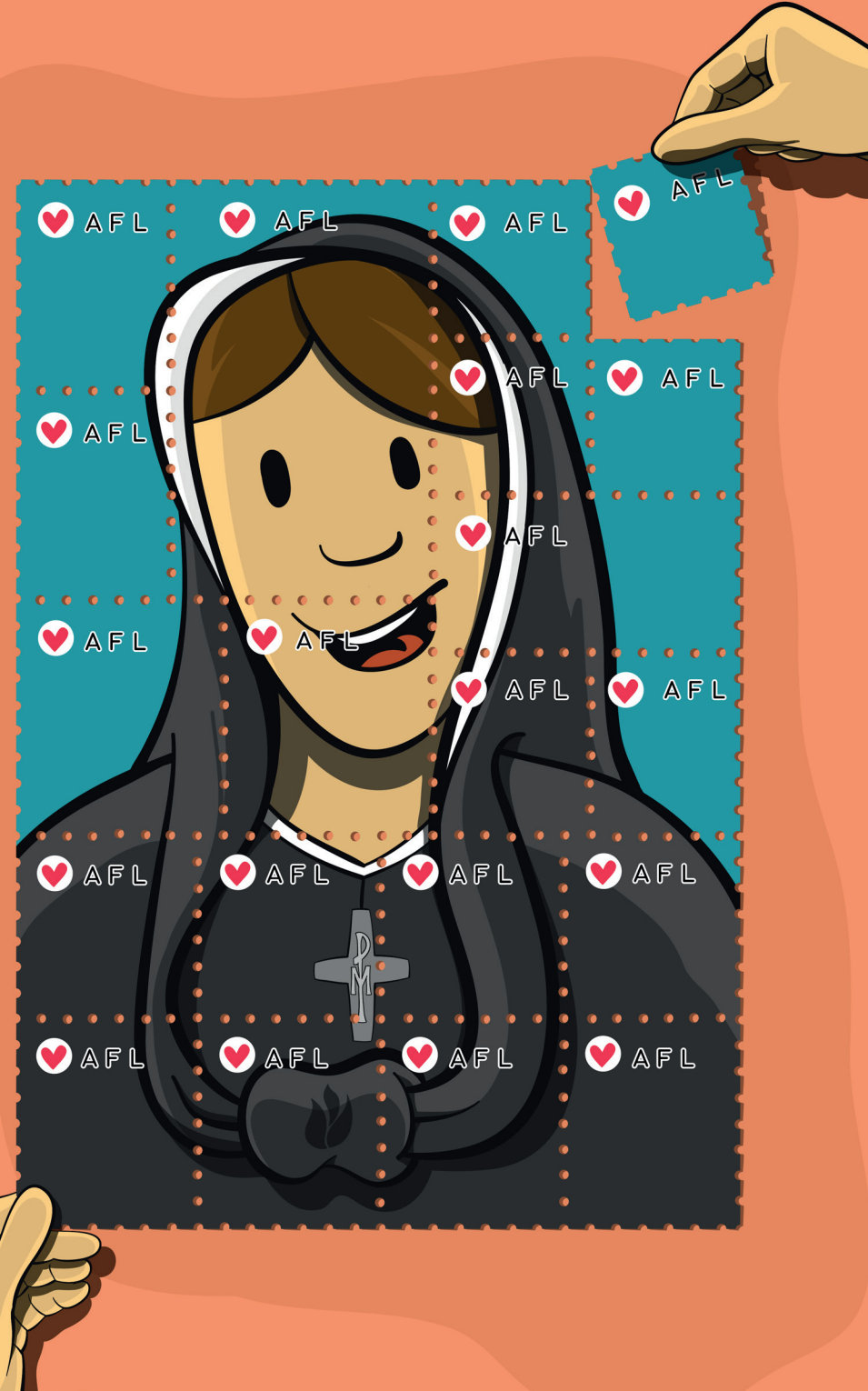
これら全てに意味を与えるためには、終止符を打たなくては  
ならないと思います...

私たちは、私たちが持っているもの、私たちが何であるかを失  
うことを恐れの中に生きています。そして警戒しながら、条件付  
きで、与えます。

そうすると、恐怖は、増やすのではなく、減らします。何故なら  
恐怖は自由から生まれたものではないからです。自由とは分か  
ち合うこと、全ての人が命を、豊かに命を得るために自らを与  
えることだからです。

マタイ 19, 16-30

マルコ 12, 41-44





**「わたしたちの人生が、人々がイエス・キリストを読むことができる開かれた福音書になりますように。」(マリー・リヴィエ)**

福音を生きることは、地上で天のように生きられるようにする貴重な仕事です。福音となることは、神の生きた言葉となること、良い知らせとなるために、心を燃え立たせるために受肉することです。

マリー・リヴィエは、重要なことは、聖母奉献会の召命に意味を与えるものは、イエスのメッセージ、人々が中心にある愛のメッセージであることを思い出させます。

私たちの本質、私たちが何であるのか、ということから出発して、存在し、生きるためように呼びかけられています。神の似姿として。

ヨハネ 15, 13-17  
ヨハネ 20, 19-22







**マリーリヴィエは自分の中に聖霊の火を感じました。それが彼女のミッションの全体を照らし、彼女に驚くべきことをするように押し進めたのです。**

彼女は、火をともした松明は多くの人を照らし、命だけが命を広げることを知っていました。そして彼女はこれを心に刻み込んでいました。

私たちは光であり、誰も灯した明りを、引き出しにしまって隠したりしません。私たちは、私たちが受けた光を全ての人の心にもたやすために、私たちが見聞きしたことを物語るために呼ばれています。

そして、時にはあなたが闇の時期を経験しているように感じる場合でも、これらの時期に直面することを恐れないでください。何故なら闇は光を制限しますが、光を消すことはありません。他人の光を見て、模範となる人たちを探し、歩き続けてください。光は私たちを照らし、私たちを導き、私たちに同伴します。

マタイs 5, 14-16  
使徒言行録 2, 1-11







あなたは今まで何かまたは誰かがあなたの心を燃え立たせ、あなたがそれを隠すことができない程にあなたを満たしたことがありますか？

あなたに他の何かを考えさせない、じっと座っていることが出来なくなり、あなたの内面をかき乱し、ソファからあなたを立ち上がらすこの情熱。そうです、これがマリー・リヴィエにイエスについて起こったことです。

情熱、熱意、献身、熱意、すべてのこれらの要素は、世界の最も遠く離れた果てまで、イエスのメッセージをもたらすためにあらゆる困難を乗り越えるように、彼女を推し進めます。不確実性の中にも好機を見出す、失望の中にも関わりを、そして幻滅の中でも愛だけを見る、どんな困難、障壁も知らない、解き放たれた情熱。

この愛の情熱は、彼女の最高の贈り物です。何故ならあなたが本当に愛するとき、あなたはもはや止めることができない、生きていくと感じる、あなたはあなたの心にあるものから、真実性から生きる危険を冒します。これがわたしたちの信仰と喜びです

詩編 16, 5-11  
ヨハネ 20, 11-18





**マリアがいなければ、全ては不可能だったでしょう。全てが彼女の足元、彼女の膝の上に生まれました。**

マリアの笑顔は私たちの歩みを強化し、マリアのまなざしは私たちの宣教師の召命、神が私たちを愛するように愛したいという私たちの夢を承認します。

私たちはマリアの娘です。それは私たちの支え、私たちの道、私たちの希望です。

マリアと一緒になら全てが可能であり、彼女と一緒に私たちは前進し、私たちは成長し、私たちは命を与えます。

**IARO RIS ! 今、彼女は笑う!**

黙示録 12, 1  
ルカ 1, 46-55





### イエスの福音を宣言し、伝える情熱。

マリー・リヴィエの中に燃える福音の精神は、いつでも、そしてすべての人に、どこでもイエスを知らせるために彼女を押し進めます。

彼女は自分の心の中にあるもの、内側から彼女を動かす命について話します。彼女の宣言は明確で、誰もが理解する簡単な身近な言葉を使います。何故なら、例外なく全ての人と一致することこそが、彼女の最大の課題なのです。

彼女は自分が知らないことについて話しません。彼女が言うことはすべて前もって彼女の心を通り、彼女が祈り、彼女が自分の人生の中を通過させたものです。これは理論と実験の違いです。

マリー・リヴィエは人々の心に触れます。何故なら彼女は命を伝え、そしてそれは常に変化し、考えさせ、歩み始めるように招くからです。

ルカ 4, 14-21  
エフェソ 3, 8-21





神が私に望んでいることを、私は望む。

ルカ 1, 26-38  
ヨハネ 1, 35-51







**「あなたは過去も未来も自由に使いません。あなたは現在の瞬間にしか参加できないのです。」(マリー・リヴィエ)**

現在に生きるために、起こっている全てに目を開くこと。今、ここで、それを享受するために。私たちは多くの時間を上の空で過ごしています。習慣的な行動は、私たちを機械的に生きるようにさせます。私たちは過去を思い出し、将来を心配することに忙しすぎるのです。

私たちが本当に持っているのは現在であるのに、私たちは私たちの人生を、過去と未来の間に失ってしまうのです。

現在に生きることは、命を出現させ、細部を高く評価させ、毎日をもたらすものに命を与えます。

人生は贈り物です。全てのものの中で神を発見しなさい。そうすればあなたは幸せを見つけられるでしょう。

マルコ 8, 36-37  
コヘレト 3, 1-8



# 現在を、 今を生きる



**イエスを知り、イエスを生きる、私たちの人生によってイエスを示す。これが私たちの召命です。**

命があなたの中を流れるとき、それは隠すことができない、それは偽ることはできません。わたしたちは神から受け取ったものを伝えるために、生きて命を与えるために、召されていると感じています。

マリー・リヴィエは若者たちと恋に落ちています。彼女は若者たちの熱意、目を開いて夢を見たいという願望、本当の愛に心を開きたいという願望に恋しています。そして、彼女は若者たちに人生の本質、福音の喜び、愛の革命を示すために彼らと一緒に歩きます。

人生に関わっている、地に足のついた、最も小さな人々と共にある若者たち。

**私たちは奉獻です。**

ガラテア 5, 13-14  
1 ティモテ 4, 12



# (女性使徒)

この業は私のものではなく、神のものです。





マリー・リヴィエは、彼女の心の中で、たゆまずにイエスを全世界にもたらしたいという躍動を感じました。彼女自身から出発して、彼女はその向こうを見ることを、世界の必要を見ること、人々に耳を傾けることを学びます。

彼女はいつも笑顔であきらめません。彼女は、彼女の疑問と恐怖にもかかわらず、信頼して歩みます。何故なら彼女は神が彼女を弱さの中に強めてくださることを知っているからです。

あらゆるところで、最も目立たない片隅で、悲しい表情の中に、石の心の中にも、疲れた手の中にも、彼女はイエスのことを話し、イエスの愛をもたらし、光をもたらし、まだイエスを知らないすべての人々に光と希望をもたらすために、彼女は多方面に気を配ります。

彼女が幼い頃から見聞きしてきたすべてを広め、主が彼女にしてくれたことを語り、全ての人が生きることができるように、この命を全ての人にもたらすこと。

マルコ 10, 27  
2 コリント 12, 9-10







**貧しい人々への関わりはマリー・リヴィエの人生を特徴づけました。彼女は、もし修道会が貧しい人々を忘れるならば、彼女は修道会が無くなった方が良くとまで言いました。**

人々の必要を大事にすることが彼女の優先事項です。各自に必要なものを与えることは、立ち止まり、耳を傾け、目を合わせる必要があります。

他者の希望や願いに気を配り、彼らの恐れ、必要を知ること、私たちがより大きくします。何故なら、そうすることは物質的なものを超えて私たちが結びつけるからです。

マリー・リヴィエは、決して人を助けることを断ったことはありません。何故なら人の心を見るなら、その人から顔をそむけることは出来ないからです。

マタイ 5, 1-12  
マタイ 25, 31-46





心をつくして、魂をつくして、力をつくして、イエスを愛する。

彼を愛するには、愛に満ちた心、穏やかで真実性と沈黙が支配する心が必要です。私たちの最初の仕事は、心です。それを大事にし、それに耳を傾け、それを愛することです。愛を与えるために自分自身を愛すること、これは革命です。

神は、神を心から求める素朴な心の中に自らを現します。命に対して開かれていること、自分の心の中にあるものに正直であることは、他の人に近づき、命を分かち合うことを可能にします。

ありのままの自分自身を示すことを恐れてはいけません。何故ならそれがあなたを大きくさせるのです。

沈黙の時、孤独の時を恐れしないでください。何故ならあなたは自分の心に耳を傾け、自分自身と出会い、神と出会うことが出来るからです。そしてそれがあなたを強くするでしょう。

自分の心に忠実であることを恐れしないでください。何故ならそのことがあなたを人々に近づけ、あなたを幸せにするからです。

マルコ 12, 28-30  
ローマ 8, 35-39





集まって学校を創立しましょう!と私たちの創立者は言いました。

教育は私たちのミッションの中心にあります。私たちのカリスマは福音とイエスの愛を宣教することです。学校では、愛、自由、家族の精神という価値観に基づいて、私たちは共に成長します。

私たちの中心を通過する一人一人を教え、同伴し、支え、迎え入れ、養成し、愛することは、恐らくマリー・リヴィエが私たちを残した最高の遺産です。

何故ならそれは、その人を中心に置き、その人の希望、夢、力、困難、必要を見て、イエスがしたであろうように、それらに対応することを意味するからです。この方法でのみ、人は愛されているとすることが出来、そして成長することが出来るのです。

ルカ 13, 20-21  
ルカ 2, 41-52





マリー・リヴィエは、謙虚な人々、素朴な人々、小さな人々の中にイエスの顔を示します。

貧しさは、貧しい人々の基本的な必要を賄うことだけではなく、私を希望に呼びかけます。私たちに残されたものを与えることは、不正義と不平等を正常なものとして認めることになりません。しかしこれらは正常なことではないのです。

豊かさとは、私たちの存在であり、私たちの所有ではありません。貧しさとは、私たちが所有していることの結果なのです。

人々のところに赴きなさい。例えば人々が何も持っていないくても、現実に目を開きなさい。現実があなたを触れるに任せなさい。

この世界を私たちが皆尊厳を持って暮らすことのできるより良い場所にするためには、私たちは物事の見方を変える必要があります。

1ヨハネ 4, 20-21  
イザヤ 58, 1-12





解放する

救世





**世界と命に生活に完全に開かれること。このようにしてマリー・リヴィエは1838年2月3日に亡くなりました。**

彼女の人生は世界に開いた窓であり、彼女は最も些細なことから、人々の重大な必要まで、あらゆることに注意を払うことが出来ました。彼女が細部を大事にしたのは、神が細部に宿るということを彼女は知っていたからです。彼女のすることの全ては、多くの困難があり、わずかな手段しかなかった時代において、人々の人生を変えた一抹の涼風でした。

自然の中で神の偉大さを観想し、あらゆるところに、あらゆる人の中において、神に出会うために開いた窓。

マリー・リヴィエは、本当の命への開示を遺産として私たちに残しました。彼女は私たちに、出会いに赴くこと、窓を大きく開き、世界を抱きしめるように招きます。

ヨハネ 14, 26  
1 コリント 1, 26-31





マリー・リヴィエ、極みまで愛を生きた勇気ある女性。彼女の人生と、多くの人々の人生を変えた愛です。

マリー・リヴィエは人々と出会って、向かい合って、私たちに慈しみの秘跡を啓示します。それは命を見ることへの呼びかけ、人々を神の顔に近づけることへの呼びかけにほかならないのです。それは人々への関わりであり、共同体的結びつきを創造することです。

誠実に、目と目を合わせて見ることは、勇気を必要とします。それは命によって自分が変化されるに任せることを受け入れることであり、強烈に生きることです。

私たちの違いを受け入れ、そこから大きな家族を築き、神の王国のしるしとなるために人生と信仰を分かち合い、手をつないで歩いて行くこと。これが冒険なのです。

1 ペトロ 3, 15  
1 コリント 13, 1-13





マリー・リヴィエは、目に見える永続的なやり方でマリアに対する絶対的な信頼を表現する必要性を感じました。従って彼女の創った共同体の門には次の文が刻まれています

「聖なる乙女、あなたの家を守ってください」 この言葉は、私たちが彼女の子供であり、彼女が私たちを守る母であることを思い出させます。

私たちは、石や建物ではありません。それ以上に、私たちは人を迎え入れ、保護し、世話する家です。自らを奉獻するのは、命を与えるのは、家庭を作るのは、心です。

今日、私たちは目に見える形で、次のことを私たちの魂に刻んでいます。すなわちマリアが私たちにとって全てであり、私たちがマリアと手をつないで歩き、彼女が私たちの心を守るなら、全てが可能であることを。

マリア、あなたの家を守ってください。

ヨハネ 19, 25-27  
1 コリント 3, 16-17







創立者は 多くの計画、多くの夢を持っていました。そしてそれらはやがて実現しはじめたのです。

**「いつの日か、私の娘たちは海を渡るでしょう。」(マリー・リヴィエ)**

聖母奉献会は宣教者であり、福音を告げ知らせるために、家を開き、最も貧しい人々に奉仕し、心から答えるために、他の火を照らし、他の火を燃え立たせる火になるために、世界を駆け巡ります。

今日、私たちは世界の多くの場所に存在し、私たちは浄化する火、光と暖かさを与える火であり続けています。私たちは、私たちを派遣し、私たちの使命に意味を与えるイエスと共に、火あり続けます。

今日、私たちは皆この任務の一部であり、私たちは全ての心に福音をもたらす宣教に重要な貢献をしています。

私たちはこの物語の主人公なのです。

マルコ 16, 15-20  
創世記 12, 1-2

# 私たちは宣教師です



一緒にしましょう！



# 信頼を持って歩もう







**私たちは神の愛を運ぶ**









聖母奉獻修道會